



ひまわり大楽・富沢地区集落合同「モルック交流会」を開催

11月13日、万騎の原屋内運動場「さくら」を会場に、「モルック交流会」が行われ「ひまわり大楽」と富沢地区集落から合わせて約50名が参加しました。

試合が始まると狙った数字がなかなか倒れず、予想以上に苦戦するシーンも多々見られました。会場内には参加者らの歓声や笑い声が絶えず、老若男女問わず気軽に楽しめる「モルック」が、町民に広く浸透しつつあることを実感できる交流会となりました。

第12回最上町新そばまつり

11月17日、旧赤倉小学校にて第12回最上町新そばまつりが開催されました。今年は天候にも恵まれ県内外から多くの方が訪れ、最上早生の新そばを味わっていました。

会場を訪れたご家族からは「とてもおいしかったです、また来たいです。」と好評でした。

また、会場では、黒澤餅つき唄保存会の皆さんによる餅の振る舞いや、最上町ボランティアガイド協議会によるステージ演出、特産品の販売など、イベントを盛り上げていただきました。



カーブミラーを寄贈していただきました

11月18日、もがみ中央農業協同組合の押切安雄組合長が役場を訪れ、町に4基のカーブミラーを寄贈しました。このカーブミラーは、交通事故防止対策事業の一環として例年、同組合と全国共済農業協同組合連合会山形県本部より、寄贈いただいているものです。町では、寄贈いただいたカーブミラーを見通しの悪い場所に設置し、交通事故防止に役立てて参ります。ありがとうございました。

町産きのこが山形県きのこ品評会で入賞

11月28日、新庄市のゆめりあを会場に第38回山形県きのこ品評会が開催されました。県内から41点のきのこが出品され、色や形、鮮度など複数の項目の審査を受けました。結果、川崎好春氏（清水町）が最優秀賞（菌床しいたけ）、太田博氏（前森）と高橋朋敬氏（向町）が共に優秀賞（菌床しいたけ）を受賞しました。また、二戸司氏（大堀）は優良賞（菌床しいたけ）を受賞しました。山形県きのこ品評会では、毎年町内のきのこ生産者が複数名入賞しており、最上町産きのこのさらなる高品質化が期待されます。



大場利秋氏が山形県産業賞を受賞



表彰される株式会社大場組 大場利秋会長

この度、株式会社大場組会長の大場利秋氏が山形県産業賞を受賞しました。

大場氏は大場組を創業して総合建設業を軸に、産業廃棄物処理施設での環境保護やリサイクル推進、高齢化社会を見据えた介護施設の運営、町の情報発信拠点としての観光施設整備など、多方面にわたる事業を手掛け、地域産業の活性化と雇用確保に貢献し、地域社会のために尽力されているなどの長年の取り組みが評価され山形県産業賞に選出されました。贈呈式が11月3日、山形市文翔館で行われ、吉村美栄子県知事より表彰されました。この度の栄えある受賞、大変おめでとうございます。

株式会社三和食品がふるさと企業大賞を受賞

最上町で加工食品業を営む、株式会社三和食品（奥山茂智代表取締役）がふるさと企業大賞（総務大臣賞）を受賞しました。

今回の受賞は大蔵村での雇用創出と災害支援の寄附、さらには大蔵村産トマトのケチャップがふるさと納税の返礼品として地域貢献していることが高く評価されたもので、同村からの推薦による受賞となりました。

今回の受賞の評価対象となった同社のケチャップは、当町でもふるさと納税の返礼品に採用されており、町のPRに大きく貢献していただいております。

この度の栄えある受賞、大変おめでとうございます。



表彰される株式会社三和食品 奥山茂智代表取締役



最上ロータリークラブ様より最上駅にTVの寄贈

10月15日、最上ロータリークラブより最上駅にテレビを寄贈していただきました。

JR陸羽東線は7月の豪雨災害により現在も運休が続いている状況ですが、「最上駅」活性化のため、駅を町民が集う場所として利用してもらいたいとの同クラブの思いが込められています。

同日、最上駅で行われた「青空市」では、同クラブによる芋煮のふるまいもあわせて行われました。100食分があつという間に完配し、来場者は青空の下、秋の風物詩の味を楽しんでいました。